資料・統計

2001年婦人科入院悪性腫瘍統計

Annual Report of Gynecologic Malignancies in 2001

高橋　威　児玉省二　本間　滋　笹川　基
塚田清二　西川伸道　網倉貴之　西野幸治

Takeshi TAKAHASHI, Shouji KODAMA, Shigeru HONMA,
Motoi SASAGAWA, Seiji TSUKADA, Nobumichi NISHIKAWA,
Takayuki AMIKURA and Koji NISHINO

要　旨

2001年，当科で入院治療を行った悪性腫瘍患者について，疾患の種類と症例数ならびに臨床進行期分類と治療内容について集計報告する。入院以外の外来治療例は本統計には含まれていない。

1．入院全悪性腫瘍患者

2001年に入院治療した悪性腫瘍患者は表1に示すように200例であった。初回治療である新鮮例は123例であり，そのうちわけは，子宮頸癌57例，子宮体癌36例，卵巣癌22例，その他8例であった。再発あるいはpersistent diseaseの状態で治療した症例は31例，卵巣癌の広義のsecond look operation 3例，ほかに現在NEDであるが再発予防のため周期的補助化学療法や癌治療後の副作用に対する対症療法例が43例あった。当科では近年，進行例に対し周期的補助化学療法を行い，予後改善につとめている。

2．子宮頸癌

表2は2001年新鮮例57例の臨床進行期とそれらの治療内容を示したものである。臨床進行期別にみると0期が41例と最も多く，ついでI期13例，II期3例であった。進行癌は少なく，早期癌（0・Ia期）率が84.2%となり，子宮頸癌死亡は益々減少してゆくことであろう。

治療内容は57例全例に手術療法がなされ，うち2例ずつに放射線療法と化学療法が追加された。

3．子宮体癌

表3に臨床進行期別症例数とそれらの治療内容を示した。I期が23例と最も多く，ついでIII期の12例であった。子宮体癌は年々増加傾向にある。

治療内容をみるとすべての症例に手術がなされており，その中のhigh risk group16例に化学療法が追加された。

4．卵巣癌

表4に臨床進行期別症例数と治療内容を示した。本年度はI期が多いのが特徴であり，I期14例，III期4例，IV期3例であった。

治療はI期の半数は手術療法のみであり，ほかは全て手術療法と化学療法が併用された。

新潟県立がんセンター新潟病院　産婦人科
Key words：婦人科悪性腫瘍

表1　2001年　当院入院悪性腫瘍患者

疾患名		症例数
新鮮例	子宮頚癌	57
	子宮体癌	36
	卵巣癌	22
	その他	8
再発例	子宮頚癌	8
	子宮体癌	9
	卵巣癌	12
	その他	2
卵巣癌　second look operation		3
周期的維持化学療法，対症療法		43
計		200

表2　子宮頚癌の臨床進行期別症例数と治療内容（新鮮例）

臨床進行期	症例数	治療内容			
		手	手・放	手・放・化	手・化
0	41	41			
I a	7	7			
I b	6	4	1		1
II a	2	1			1
II b	1		1		
III a	0				
III b	0				
IV a	0				
IV b	0				
計	57	53	2		2

手：手術療法，放：放射線療法，化：化学療法

表3　子宮体癌の臨床進行期別症例数と治療内容（新鮮例）

臨床進行期	症例数	治療内容		
		手	手・化	化
I	23	20	3	
II	1		1	
III	12		12	
IV	0			
計	36	20	16	

表4　卵巣癌の臨床進行期別症例数と治療内容（新鮮例）

臨床進行期	症例数	治療内容		
		手	手・化	化
I	14	7	6	1
II	1		1	
III	4		4	
IV	3		3	
計	22	7	14	1